鈴木先代岩治郎之遺書描寫

二代　鈴　木　岩治郎

大日本武州川越城主十五万石
松平大和守藩中士
鈴木徳左右衛門儀浪人シテ
武州農民ト相成リ百姓ヲ行フ
忰　長男　我父　徳次郎
次男　藤吉
長女

我実父鈴木徳次郎儀若キ時ヨリ身持悪シクニ付親共ノ身込ヲ以テ同村何某ヘ養子ト縁付他家ヘ行キ其ノ身持モ悪シク遂ニ一軒家ヲ潰シテ我生家ハ次男藤吉ヘ譲渡シ置キ其ノ儘江戸表ヘ参リ然ルニ右百姓ヨリ外ニ覚ヘタル手ニ職モ無ケレバ唯致方ナク武家奉公ニ相住ミ居リ其ノ折伏モ江戸麹町一番町ニテ五千五百石殿小堀某方ヘ相勤メ居リ小石川傳通院前安土坂家持主平民板屋根高親長女ヨネ右ハ我ガ母親コト同次男由兵衛此ノ人母親後継此ノヨネ子儀ト夫婦ノ縁組サヽヤカナル裏家住居麹町一丁目ニテ兄文治郎天保九年戊出生仝十二年丑七月二十一日次男岩治郎出生仝弘化三年丑三男徳蔵出生尤モ小石川金光寺坂上居住ニテ我々男子バカリ三人兄弟罷在リ之ノ儀我等身上モ余リ心配致シ両人ヘモ辛ク考ヘモ仕ラズ折伏今日ハ旧暦四月九日ニ相成リ母様祥月命日ニ相当リ一寸認メ掛リ明治十四年己五月五日ノコト我父徳次郎素ヨリ書類ヲ相好ミ書数讀ムコトハ一人前勝レ誠ニ珍シク本商家一軒有合セ書類皆々讀仕舞申候又外書付数多ク持居ル家ニ有合セノ分代価無シニテ二三軒分讀ミ盡シタル右様人物ニ御座候得ヘドモ無何分徳川公旧幕厭制時故何カト有ツク（就職）コト出来申サズ折柄我等兄弟出生致シ候ヘバ其ノ日働キ稼グニ足リ兼ネ日雇致シ一日ノ稼ギ値僅カ天保銭二百匁ヨリ三百匁ヅツ頼リ親子四人ノモノ露命ヲ継グ尤モ親共我身ニ手仕事ヲ覚ヘ［之無ク候］家裏方手廻リ日雇人又ハ人ノ使或ハ荷車輓キ又屋敷方ノ草苅其ノ外色々様々心盡シ致シ候ヘドモ是ト定条（定職）モ無ク候ハバ隙時多ク休有リ殊ニ親共大酒飲ミ之故手許大困難母モ手仕事致シ候ヘドモ我等幼少ニテ手紛レ何カト不都合岩治郎五才ノ時小石川傳通院前コヾリ坂上手転宅致シ其ノ折伏徳蔵出生致シ其産後母ハ引續キ大病ニ罷合ヒ大困却介抱致ス人モ無シ一日休ムト其ノ日暮ラシニ困リ毎日早出致シ一人半働キ我々兄弟父帰リヲ待入リ候事我五才ニテモ辛キコト故克ク承知致シ居候其ノ明年米モ諸品モ下値ニ相成リ何分丙丑年米高天保銭一百匁ニ付白米五合ヨリ一人半相働キ三百匁位稼ギ四五人養ヒ殊ニ母大病ニ父親ノ心痛甚シク後日話ニ夜五時ヨリ一里アル麹町マデ参リ衣類二枚持チ質入致シ八百匁借リテ小石川マデ一里帰リタル時ニハ忘レ兼ネ此儀幾度モ我々ニ御話有リシ候明年弘化四年未五月麹町一丁目相模屋裏家ヘ軒宅致シ参リ母病氣追々全快兄文治郎儀年十一才春同所山元町近江屋甚平方ヘ奉公ニ参リ但シ菓子商江戸名所煎餅職業此ノ家ニ十七才迄住居リ之ヨリ江戸表ヲ飛出シ諸国渡人菓子職致シ東海道ヨリ大阪讃岐長州下関神戸之ヨリ相廻リ文久二年亥四月江戸表ヘ帰宅致シ文治郎二十六才ニ相成リ居リ候也岩治郎儀年八才五月麹町四丁目魚商泉屋吉右衛門方ヘ奉公同様ニ参リ此ノ家主人五十

才余ニテ子無シ唯遊ビ事ニ日ヲ送リ毎日賭博バカリ打廻リ我ガ家ニ帰リ其ノ身持甚ダ悪シク折伏我ガ家二度モ近火ニ出会ヒ二三ケ年間據処無ク裏借家住居ト相成リ行キ日々ノ容易共六ケ敷白米百匁百五十匁宛買廻リ其ノ時我十二才子供乍ラ小々バカリ御為金貯リ居リ持チ矢張リ米代取替ヘ薪木代何カト貧苦ニ相暮シ誠ニ非人同様ノコトニ成行キ私ノ不運申ス迄モ無ク人々右様ノ家ニ居リ候テハ其ノ甲斐之無ク是非ニ隙貰ヘト勧メニ預リ尤モ八才ヨリ参リ候宅故嫌と申立親宅ヘ帰リ度キコト数度帰ル度毎ニ甚タ厳シク懲シメノ為仕置キ会サルノコト手ヒドク之ヨリ辛抱致居候然ル故ニ泉屋方悪シキ儀日ニ〳〵相増シ據処無ク十三才三月泉屋宅ヲ御暇承リ親父宅ヘ帰リ罷在候也然ニ兄文治郎儀菓子商ニ相勤メ同商条大ニ勧メニ預リ我モ望ニ任セ即チ麹町三丁目谷町近江屋喜平衛様方ヘ同月二十日菓子商同家奉公住致シ嘉永六年三月ヨリ（十三才ヨリ）満八ケ年定約ト致シ相勤メ居リ候也

初代　岩治郎（1841～1894）

三男徳蔵儀出生後母大病ニ承合ヒ数度難ニ遭ヒ夫ニ付父上ニモ長男次男奉公ニ差出シ置キ候ヘバ三男漸ク満三年七ヶ月春五才嘉永二年二月一日ヨリ父姉嫁付先甲斐ノ国八代郡大島村観応寺其ノ方ヘ連レ行キ素ヨリ身内ノ事岩治郎徳蔵ノ両人ノ中一人ヤル貰ラウノ約定之有候儀幸トシテ父一人ニテ徳蔵連行キ先方ニヤリ切リニ渡シ帰リ折伏シ江戸表ヘ麹町四丁目小西裏ヨリ二月五日午前九時ヨリ出火始マリ折伏西北風烈シク大火ト相成リ何千戸多数焼失麹町永田馬場ヨリ愛宕山芝浜手迄凡ソ一里半余焼失其ノ折文治郎主家同岩治郎主家親元家共皆々一時ニ焼失折伏父ニハ留守中母一人病床ニ伏シ居リ候処矢張リ焼失親類方ノモノ参リ道具類少シ取出候ヘバ丸焼ケ其ノ儘親類方ヘ同居ノ処親父甲斐ヨリ帰宅致シ我家無シニ付四谷天主横丁ヘ借宅致候其ノ処ニテ母病介抱致居リ候ヘバ追々重病ト相成リ養生モ叶ハズ午後四時ニ死去致シ嘉永三戌四月九日文治郎十三才岩治郎九才徳蔵五才兄弟三人外ニ四五名ニテ墓送リ致シ葬式万端不都合ニテ誠ニ哀シキ事他所仮宅ニテノコト母ノ若死気ノ毒ノ至リ後日佛事ニテ萬事葬ヒ致スコト父上ニハ其ノ後麹町ヘ帰リ後二度家内持チ居リ候然し此ノ女身持悪シク五ケ年連添ヒ夫婦別レ致候又三度目家内持居リ候四年バカリ連添後夫婦別レトナリ近江屋喜平衛殿方ヘ岩治郎儀十三才ニテ奉公住居リ候テヨリ菓子職大ニ勉強致シ候処此ノ家ハ資本金無シ借金百五十円バカリ所々借有リ凡テ現金買物致シ右借金方小々ヅツ拂込ミ居リ候也此ノ家主極ク正直者二十八才ニテ養子ニ参リ四十九才ニテ死去致候ヘドモ我一代百五十円借金返納出来兼ネ殊ニ一人娘トメ又後女一人花両人ノ処後妻不縁ニ相成リ喜平衛死去後岩治郎二十年ヨリ二十一年冬迄住居リ候処親類ノ者強ク思込ミ居リ近江屋身内与三郎ナルモノヘ悉皆渡シ岩治郎二十二年四月同主家ヲ出テ手職方相働キ居リ候文治郎十三才ヨリ麹町山元町近江屋甚兵衛方奉

公住居候テ十六才迄相勤メ居候処主家ヲ跡ニ見テ嘉永七年寅二月家出致シ之ヨリ諸国菓子職修業致シ渡人ト相成候間親父心配致シ諸国ヘ手廻シ相尋ネ候ヘドモ行先相判リ申サズ親共心配バカリ日ヲ送リ候其ノ後主家近江屋甚兵衛方日ニ増シ不景氣ノ処ヘ主人甚兵衛四十有才悉使ヒ女買ヒ其ノ中家内死去女子二人子供連同主家落ブレ極リ貧苦ニ相成リ非人同様此ノ家ハ之迄ノコト他人ニ相成リ申候

一、実父我ガ職業相働キ居候処今日ヲ送リ世帯出来兼ネ尤モ若キ時ヨリ無理致シ候事追々ニ病氣ト相成リ甚ダ困リ切リ其故甲斐ノ国親類三男徳藏ヘ此ノ方向ケ実父私ヨリ送リ届ケ父上ノ事相預ケ置候東京菓子職致シ居リ候処極上等職方ノ手間賃一日ヲ天保銭二枚宛此ノ時私ノ手間賃百五十匁宛稼キ居リ候処五六月過ギニ実父徳藏送リ東京私ノ下ヘ連参リ実父病氣足モト悪ク働キ方小廻リ出来兼ネ其ノ儘引取置キ候ヘド私ノ家無シ依テ武州多喜村百姓藤吉実父弟ノ家ニ依頼置キ私家出来ル迄ノ処安政七年文久ニ至リ十一月ノコト然ルニ明年二月兄文次郎主家近江屋甚兵衛家共諸道具付売家ト相成候近江屋喜平衛方身内ノモノ金百五十円ニテ諸道具付買入レニ相成候幸右家一ケ月金八円ニテ借受ケ致候然ルニ私金融相付申サズ手許金三円余リアリ外ニ手当無キニ付麹町当町吉岡軍太夫方即チ吉岡廣平翁ニ相当リ此ノ家ハ素我母ヨネ相勤メ先主家ニ御座候処随分金持ニテ豊カ富貴ノ家ニ付其ノ訳ヲ申立テ金五円丈借用ニ参リ候処主人オラレズ断リ申シ居リ誠ニ残念千万途方ニ暮レ実ニ困却罷在リ之ヨリ主家取引先高島屋米商方ヘ罷出テ右金五円差詰我親父病氣全快ヲ介抱ノ為一軒商店借受其ノ敷金十円差入レ申ス可ク金額致可ク候由話致候処高島屋心良ク請合ヒ早速ト金五円貸シ渡シ呉レト聴キ入レ難有右借金五円始メテノコト金ノ光此ノ時嬉シク承知致候之ノ嬉シサ私一代ノ間忘レル暇モ無ク候右資本トシテ取掛リ即チ二十三才二月二十七日開店仕リ候之ヨリ男バカリ相働キ致シ同三月十七日預先武州多喜村親類ヨリ実父引取リ私手許ニテ介抱仕居リ候折伏兄文治郎二十六才十一ケ年目帰宅致シ余リ長年ニテ親父私迄モ兄ノ顔見覚ヘ無シ御話合兄弟共親ニモナリ合ヒ漸ク相判リ申可ク候事殊ニ喜ビ久々話迄致シ之ヨリ兄弟両人ニテ親介抱旁々相働キ借用金皆々返済ズミニ相候処同年九月四日午後二時死去致シ候即チ父上ノ名徳次郎五十七才寅年死去致シ候此ノ時ニハ商賣都合良ク手許少々マシニ相成候事父上ノ墓送リ萬事丁寧葬ヒ仕リ候又々之ヨリ稼ギ働キ申候処兄文治郎儀男立職ノ人親方氣込ミ萬事不和誠ニ無理バカリ多ク困リ切リ兄文治郎勢強ク色々勘考致シ我組立菓子店ヲ兄ニ譲置キテ我一身トナッテ諸国巡業致シ上等職人トナリ兄ヨリ優リテ上職トナリニ其ノ頭分権力成立タク思ヒ之ヨリ商店名義文治郎ヘ切替ヘ同人家内貰受ケ店方一切兄ヘ家督譲渡シ我ハ旅立チ致スベク候心組ミ折伏江戸表長州毛利家朝敵ニ相成候長州征伐ノ趣徳川ヨリ仰セ出サレ諸国大名旗下京都ヨリ長州向ケ出発致シ元治元年二月ヨリ七月三十日迄ニ出立仕舞ヒ其ノ時徳川十三代将軍五月五日御出立ニ相成リ半年間毎日幾頭トナク軍ヘ出立致ス間江戸表モ余程寂シク大小名共二百余万人西京大阪中国ヘ参リ居此ノ時西京大阪賑シキ事甚シク吾七月十八日江戸表出立致ス岩治郎旅立ノ時自宅ヨリ転出旅金金十円并ニ絽羽織一枚単衣一枚跡常衣ノ儘外ニ小使五円七十銭右十五円三分旅金ト致シ其ノ外手梱リ風呂敷位跡ハ残ラズ兄文治郎ヘ譲リ渡シ置キ元治元年七月十八日出立致シ甲斐道

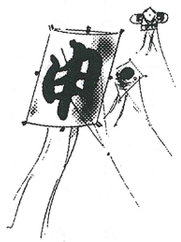
中其ノ夜八王寺泊十九日上野原宿泊二十日猿橋泊二十一日鶴ノ背泊二十二日市川泊二十三日甲府泊二十四日鰍澤泊二十五日大島村勧応寺（此ノ寺ハ即チ弟父方三男徳藏五才ノ折世継ニ遺シ先）此ノ処ニ八月初メ七八日迄泊リ居リ身延山参詣致シ大ノ山諸所ニ参リ之ヨリ東海道冨士川迄川舟ニ下リ其ノ夜蒲原泊之ヨリ東海道ヲ上リ参リ漸ク八月二十六日南安治川宿湊屋方ヘ着致候尤モ此折伊豫国西條士族面鳥吉右衛門ト申ス者ト道連トナリ此ノ人同道致シ西国ヘ行キ大阪心斎橋通リ大宝寺町角屋雷煎餅半三郎方ヘ立寄リ此ノモノ兄ノ文治郎ノ友達ニテ伝言アルニ付立寄リタリ八月二十七日此ノ者ヘ絽ノ羽織ヲ預置キ之ヨリ讃州金比羅様ヘ参詣港橋ヨリ夜舟金比羅参リ八月二十九日丸亀港ヘ向ケ出帆致シ候其ノ夜大風ニ出会ヒ明三十日大阪港ニ帰リ即チ明日九月一日夜出帆致シ二日早朝兵庫迄着船三日昼十一時ニ漸ク丸亀港迄入船仕リ候即日金比羅様ヘ参リ之ヨリ七日伊豫ヘ行キ西條着仕候同面鳥吉右衛門方ヘ一泊致シ九日金比羅様ヘコウヤブ町菓子職仲義方着仕リ候尤モ此ノ人ハ江戸久保町同商人ノ者兄文次郎友達此ノ者ノ世話ニテ金比羅中町祥禄堂廣光ト申ス菓子屋一日ノ手間天保銭四枚居住十月八日ヨリ十一月ノ二十日迄働キ之ヨリ多度津若宮町丸屋喜助方ヘ住居但シ一日ノ手間料天保銭四枚定メ即チ慶応元年四月多度津出帆致シ最早此ノ時天保銭下落致シ日一日ト下リ一円ニ付六メ二百匁通用ノ処八メ匁一円ト相成リ候此ノ時ニ長州徳川軍ト戦争トナリ此ノ戦ニテ徳川方勝利ト申スモノモアリ長州方勝利ト申スモノモアリ何レナリ共相判リ兼ネ候一方四国九州路方十人集レバ戦ノ事長州方勝利ト申スモノ六分方申立候間先々贔屓ノ相撲ニ力ヲ入レルト同様我等江戸生レニ付徳川家強キトバカリ申述ベ讃州ニ罷在候共請人ニ話出合申サス困リ其時世人ハ流リ歌申ス人ニ多ク世ノ変リ目ニ相成リ

桐ハ栄ヘテ葵ハ枯レル西ニ轡ノ音ガスル

此ノ如キ歌ヲ申スコト我ノミハ耳ニ入リ申サス唯今明治十七八年相成候其ノ以前ノ引別致シ熟々と勘考致シ候処全ク前薩摩島津家ヨリ明治御改制諸役人出デ政府外国同様政治ト相成候先ヅ諸役人島津家ニテ七分方持居リ候時ノ流行歌ヲ実ニ取リ入ル事誠ニ明ナル御世話成リキ候我等幼少ノ時ヨリ武家政治大厭制誠ニ困リ残念ノ儀ハ少シ書キ出シ置キ候

讃岐多度津丸屋政国方ニ居候時肥前ノ国野茂村豫徳寺坊主魚釣舟ニ乗リ金比羅ニ参詣致シ丸屋方ニ菓子買ヒニ参リ折面会致シ候ニ種々ト物語リ致シ候処此ノ坊主ハ東京芝増上寺ニ長々ノ間修業致居候時ヨリ我等近方ノ事故良ク承知致居候儀実ニ幸之ニ手仕舞ト致シ同道致スベク処精算仕候ヘバ案外旅銀不足ニ付又二三ヶ月相働キ都合良ク五月下旬同所ヘ向ケ出発仕リ候下関迄小舟ニ乗リ込ミ下向仕リ漸ク無事着致シ下関升屋金次郎方ヘ立寄リ申立ヲ心組ニテ相尋ネ申候処此ノ時ニハ毛利家徳川軍ノ堅メ致シ大ニ厳シク他人取調方甚シク殊ニ東京旅人見付次第第一取調致ス趣聞入レ甚ダ恐入リ候下関地方ニ陸路上ル事出来不申其ノ儘豊前ノ国小倉着之ヨリ黒崎宿迄五里参リ一泊致シ尤モ一人旅泊ルコト六ヶ敷ニ付手順致シ其ノ地方名主役員少々相整ヘ持参ノ事即チ長州表六月六月十八日無事着同所屋唐町川岸島屋金次郎方ヘ落ツキ此ノ者素越後ノ国長岡菓子職ニ付我ガ兄文治郎先年同所ヘ参リ立寄リシ話聞及ビ其ノ手續キ以テ右同人方ヘ相尋ネ申候コト同家ニ二日間泊

リ舟大工町菓子商平野屋明助方ヘ職住居鳥金殿世話ニテ此ノ主家ハ金融甚シク菓子屋ニハ珍シク内福凡ソ見込ミ菓子商ニテ判リ兼ネ住居繁栄ス我素ヨリ長崎製菓子職覚ヘ度心組ニテ一心勉強スルノミ朝早ク夜業致シ相働キ居候ヘドモ何分江戸ト長崎トハ風違ヒ菓子ノ作ヘ萬事違ヒ一通リ覚ヘ次第帰リ度心組ニテ氣張ッテ一日業務ヲ怠リ能ク覚エ込マウト思ヒ働キ之故前ヨリ居キノ人ヨリ主家信用吾同商ノ家ヘモ養子勧メノ事両三度養子世話受ケ候何分江戸迄遠方ノ処気乗落チツキ兼ネ候然共主人ノ信用大ニ有リ砂糖買入レ又ハ金子貰納メ萬事ニ使ヒ足掛ケ四年間相勤メ其ノ中同二分金徳川通貨同様ニ偽テ通用相初マリ長崎市中目ノ見ヘ得ル商人ハ受取リ申サス其ノ時薩摩士族勢強ク無理ニ我国表二分金通用ナサレ度強ク申立市中困リ我ハ江戸産レ素ヨリ金銀通貨見覚有リシ候ニ付金銀取計リ萬端多ク交易品モ少々ヅツ宛見覚ヘ然共凡ソ見計ヒ取止ムル事無シ元年ヨリ慶応四年迄相勤メ然ニ慶応三年四月浦上ト申ス処ニ耶蘇教信心致スモノ其ノ浦上村一統二百七八十名バカリ人民召取ニ相成リ此ノ人達ハ肥前大村方ヘ縄付ノ儘連行キ其ノ一命迄失ヒ候事ト相成候唯今明治何年ト相成リ候ヘバ此ノ耶蘇教ヲ追々信心致ス人多ク内国一統ニ広ク教堂迄建テ盛ト相成候事其ノ時ノ官ノ法律ノ為一命ニ相カカリ申ス可キ事申サズ候慶応四年正月帰リ度暇願申候処正月五日長崎奉行小汽船浪花丸ニ乗込ミ江戸表ニ逃ゲ去リ正月五日夜同所受取方ニ参リ大名土屋大村鞆島筑前肥後此ノ五名軍ノ堅メ致シ今ニモ戰争相始ルカト思ヒ明六日早朝ニハ東行屋敷明渡シ如何相成ル事カ一寸判兼ネ候市中往来止メ通行人モ無ク然ルニ八日トナリ大阪西京騒動ヲ友軍徳川戰ヒ西京伏見淀二日戰ヒ三日大阪城焼失徳川慶喜公堺港ヨリ火船ニ乗リ江戸表ニ逃ゲ去リシ趣キ漸ク相判リ一時マギレ申候此ノ一条ニ付諸国共旅人多大ニ嚴シク通行六ケ敷相成候此ノ一件ニ付平野屋明助方ニテモ私ニ話大イニ歎ゲキ候之故二月十五日迄延バシ置キ愈々二月十五日限リ暇ヲ取リ満三十三ケ月間貸借勘定致シ残金十五円四十銭受ケトリ但シ一日手間賃天保銭四百匁定メ尤モ先方勘定書行先ニ精算書別紙纏メ置キシ候但シ慶応四年辰改明治元年同所屋唐町三浦金次殿方ヘ右御世話ニ相成候義務ヲ之ニ御礼致シ二月十八日長州表舟ニテ出立シ茂木ヨリ肥前港迄渡リ雲仙山ニ参リ右山ニテ三日入湯致シ之ヨリ島原肥後熊本迄渡海致シ候同町抵屋町泊リ清正公ニ参詣致シ筑後久留米水天宮ニ参詣致シ追々筑前各所箱崎八幡宮宇佐美八幡コヲラ山西府天満宮等モ参詣致シ二月二十六日下関増屋金次郎方迄着致シ其節十七ヶ年月同人ニ面会致シ候同日三時ヨリ大阪迄早舟ニ乗込ミ候早速出帆宮島参詣致シ順風悪シク大ニ延引三月十七日漸ク兵庫迄無事着尤モ小舟ノ事故瀬戸海港廻リ多分所舟面白事有リ候ヘドモ職人ノ路銀少々漸ク泊賃位ヨリ之無ク金ハ使ツタ事無シ極メテ切詰メ此ノ時金一両三分ヨリ残金無ク候処長崎ヨリ神戸開港ト相成候ニ付初商賣又ハ英人ニ当頭何カト長崎人多ク…（これ以後記録なし）



═ 座談会 ═

金子直吉を語る

土佐弁同志の思い出

坂本　私は武蔵先生のお父さまでいらっしゃる金子直吉先生の名前を口にするだけで、今でも直立不動の姿勢になります。今日あるのは、一にも二にも金子直吉先生のお陰だと思っていますから、そのご子息にお会いできるなんて、大変嬉しゅうございます。

金子　これはこれは恐縮です。

坂本　お話しいたしますと、武蔵先生にもはっきり土佐弁のアクセントが残っていますね。

金子　そうですか、自分では余り意識したことはありませんが……。私の生まれは土佐ではなく、神戸です。育ったのは須磨なんですが、尋常五年生の終わりごろ、親父に呼びつけられて「土佐へ行け」といわれました。その時、いつにない厳格な態度でね。「どうもお前をここに置いておくと、店の者が甘やかして因る。土佐へ行って苦労して来い」と。大正六年だったと思います。それで、その四月に高知県立第一中学校へ入ったんです。いや、その前に、第三尋常小学校の六年生になっていましたから、中学へ入る前にすでに土佐にいたことになりますね。

坂本　そうですか。

金子　高知市内に家を借りて、亡くなった兄の文蔵と一緒に住んでいました。幸い、世話をしてくれる女中さんがいたものですから、兄弟二人の暮らしは別に不自由さはなかったですね。そこからしばらく歩いた通町一丁目に母の実家がありましたから。そこから北へ行くと本町筋で、そこには叔父の家もありましたし。

坂本　お兄さんは何歳ぐらいでしたか。

金子　何歳かなぁ、確か中学二年生ぐらいじゃなかったかな。

坂本　お母さんの実家は傍士（ほうし）という姓じゃないですか。

金子　そうです。

坂本　珍しい姓ですから記憶していますよ。

金子　そのころ、遊んでばかりいたので、両親が心配して、家庭教師をつけてくれたんです。とはいっても先生の所へ習いに行くんですがね。それがほとんど商業学校の先生の所なんです。坂本さんは高知商業をご卒業だから、当時の横山校長とかいう人、覚えていませんか。

坂本　覚えていますよ。

金子　この先生には教わらなかったんですが、玉真（たまま）という英語の先生に教わりました。

坂本　ハッハッハ……玉真先生ですか。覚えていますよ。

金子　おったでしょう。それから、もう一人の英語の先生で木原といいましたか。

坂本　よくご存知ですな。私が大正十一年に高知商業を卒業していますから、武蔵先生とは同時代に学生だったわけですね。

金子　これは面白いご縁ですね。坂本さんは野球の試合のことは覚えていますか。